

二〇一六年 七月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

×より○がよく見える「心の目」を大切に

東井義雄

人の悪いところや欠点はよく見え、人の良いところや親切には、なかなか気が付かないことがよくあるように思います。また、一方的な先入観で人を判断してしまっていることもよくあるのではないのでしょうか。問題は、時として自分の物差しで人を決めつけ、良いところを見ようとしないことかも知れません。この「今月の言葉」から、「×」より「○」を見ようとするこの大切さを改めて教えられる気がします。

教室の中やクラブ活動で「×」が気になる人がいれば、一度その人の「○」を探してみてください。探そうとすることで新たな発見があるかも知れませんね。

今月の聖語

嫉みぶかく、吝嗇^{けち}で、偽る人は、ただ口先だけでも、美しい容貌によっても、

「端正な人」とはならない。

『ダンマパダ』

『ダンマパダ』とは、釈尊の教えを集めたもので、人間そのものへの深い反省や生活の指針を短い句によって示したものです。

釈尊は、たとえ良いことを口に出し、外見を整えても、心の中で嫉み深く、けちで、偽る人は「端正な人」にはならないと述べています。

釈尊が述べるように、大切なのは人間の内面にあるものだと思います。いくら上辺を着飾り、口では聞こえの良いことを言っても、その人の心が貧しければ「端正な人」にはならない。この教えから、自分の内面を見直すことの大切さを改めて学ぶことが出来ると思います。一度自分自身のあり方を振り返ってみましょう。